

慕光会会報

丘山先生書

発行 新潟県立三条東高等学校 慕光会
〒955-0053 新潟県三条市北入蔵2-9-36
Tel:0256-38-6461 Fax:0256-38-0519
URL:http://bokoukai.com/
E-mail:info@bokoukai.com

デザイン 印刷 SALAT (株)サラト
Salat Corporation
〒670-0948
兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel:079-284-1380
http://www.salat.co.jp

同窓生数
25,284人
在校生数
958人

慕光会会員の皆様、日頃同窓会活動に際しましては多大なるご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。こうして会報第3号が発刊できましたことに、役員一同、大変感謝しております。

我等が母校、新潟県立三条東高等学校は、二年後の平成二十二年(二〇一〇年)に創立一〇〇周年を迎えます。これを受けまして、本会報第3号と来年発行予定の第4号は、一〇〇周年準備特集号という位置づけで、創立一〇〇周年に向けた取り組みや、東高一〇〇年の歩みを掲載して行く予定です。

一〇〇周年を迎えるにあたり、会員間の連携、コミュニケーションを今まで以上に深め、同窓会活動を盛り上げていくことが、我々同窓会役員に与えられた使命であると感じております。この会報誌で、母校の歴史を紐解き、また母校の現状を知ること、一人でも多くの会員の皆さんが、東高卒業生としてのアイデンティティを感じ、一体感を得られればと思います。

また、インターネットのSNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)サイトであるミクシイ上でも東高のコミュニティが立ち上がっております。若い世代が中心



会長挨拶

慕光会会長

住谷 豊

第31回生(昭和54年卒)

とは言え、同窓生同士の交流の機会が持たれていることは、非常に喜ばしいことであると思われまます。

年を重ねるごとに旧友との懐かしい思い出、母校への思いはますます募ってまいります。厳しい時代の中で、時には一休みできる場所も欲しいものです。学生時代に戻る場、気軽に悩みや愚痴などが言い合える場として同窓会が位置づけられるようになれば幸いですし、またそのように位置づけられる会にしていかなければならないと感じております。七月十三日(日)には、平成二十年度の慕光会総会が開催されます。懐かしい恩師もお招きしたいと思っておりますので、この機会に皆さん是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

創立一〇〇周年事業は、学校だけ、PTAだけ、後援会だけ、慕光会だけでは到底成り立ちません。三条東高等学校に携わる全ての方々のご理解とご協力、母校にかける熱い想いを結集して初めて成功に導けるのです。二年後の一〇〇周年に向け、会員一同、一致団結して取り組んで行きたいと思っております。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶いたします。

平成20年度 慕光会総会ならびに懇親会の開催について

- 1. 日時 ● 平成20年7月13日(日)
受付 午前 11時30分～
総会 午後 12時00分～13時00分
懇親会 午後 13時00分～
- 2. 会場 ● 饒心亭おゝ乃
所在地 三条市横町2丁目11-8
フリーダイヤル 0120-063-043
TEL 0256-32-4649
- 3. 会費 ● 5,500円 (当日会場にて納入願います)
- 4. アトラクション ● きらきら太鼓 (きらきら保育園)

- 5. 申込 ● ①学年代表幹事を通じて
②郵便若しくはファックスのみの受付です
・慕光会会長 〒955-0071 三条市本町2-9-18
住谷 豊 宛 FAX 0256-35-2117
・慕光会副会長 〒955-0803 三条市月岡1-30-6
小林 哲也 宛 FAX 020-4668-8745
③インターネットのHPを通じて
http://bokoukai.com/
E-Mail info@bokoukai.com
- 6. 締切 ● 平成20年6月21日(土)

卒業生クローズアップ



徐 京子さん
開業医 (高4)



↑長谷川さんと徐さん

東高には学園が無い。卒業してしまおうとそれきりで、せいぜい友人と交流を続けるくらいだ。慕光会に積極的に参加するまでの私はそんな感じだったし、おそらく卒業生の多くは同じような思いをしているに違いない。

しかし、慕光会のお手伝いを始めてからというもの、東高生の社会での活躍を至るところで目の当たりにする。

昨年の特集ではそうした卒業生の軌跡を特集させてもらったが、その程度では紹介しきれないほど多く、立派に活躍する同窓生たちが居る。

どなたも皆その分野では第一線で活躍している人たちだ。

そこで毎号、そうした卒業生たちをクローズアップし、同窓生の活躍ぶりを伝えていきたいと思う。

記念すべき第一弾は燕市で産婦人科と内科を開業されている「徐京子さん(高4)」を採り上げた。インタビューして頂いたのは同期

で友人の長谷川章子さん。
長谷川さんもなかなかのキャリアの持ち主で興味深いので、そのうち登場願うでしょう。

(長谷川) お久しぶりです。お変わりありませんね。今回は私たち同期の出世頭でもある徐さんにインタビューに参りました。徐さんは燕市医師会の会長をされておられるのですよね。

(徐) 会長はこの3月でようやく勤め上げました。一期だけのつもりが市町村合併やらで6年も勤め、お陰さまで燕市医師会の50周年も私の代で迎えることとなり、祝賀会や記念誌の発行といった大役を務めることになりましたが、それも無事終わりゆつくりしているところです。

(長谷川) それはお疲れ様でした。それにしても女性で医師会の会長というのはすばらしいことだと思えますが、全国的にもそう多くはいらっしゃらないですよ。いろいろな苦勞もあったのではないで

しょうか。

(徐) いえいえ、私になったのは年功序列ですよ。それでも女性の会長というのは数は少ないでしょうね。私はあまりそう思わないのですが、皆さんは心配りが行き届いていると仰しゃってくださいね。

(長谷川) 徐さんが入学したのは昭和21年でしたでしょうか。

(徐) ええ、実は私が入学したのは1年生の途中からなんです。最初は京都女子大付属高校に入学したんです。家も京都にありましたし、ところがお友達も居ないし、一人で寂しくしてしょうがない。それで中途編入で東高に入りました。

(長谷川) そうですよ。おうちは京都だったんですか。

(徐) いえ、もともと燕なんですけど、商売もやっていましたので京都にもあったんですね。家業はソバ(中華)屋でしたが、父親にお前は医者になれと小さい時から言われていて、それでそういうものだと疑いも無く京都へ行っただけです。

(長谷川) 教育熱心な親御さんだったんですね。

(徐) あの当時は女性で身を立てるには医者だったんですね。もちろん女医というのもまだ珍しい時代でしたが、それで父親の言うことを聞いて医大へ進むことにしたんです。

(長谷川) ご実家が料理屋さんだったとは初めて知りました。

(徐) 福来亭っていうラーメン屋さんをご存知ないでしょうか。今は違

いますが、実はその前身は父が始めたものです。今は一番下の弟が杭州飯店をやっていますが、杭州は父の出身地なんです。

(長谷川) 燕ラーメンの元祖だったんですね。

(徐) 燕ラーメンというと太麺に背油というイメージですが、父は時間やお客様に合わせていろいろ変えて出していましたね。朝から油たつぷりはいやだけど、夕方は美味しいでしょ、子供が10人居たのです。がみんなそうした父の心配りの商売を見て育ちました。私は昭和40年に産婦人科の医院を開業しました

が、そうした父の仕事への姿勢はしっかり受け継いでいるのだと思います。あんまり医者らしくないってよく言われましたがね。

(長谷川) 徐さんが医師会の会長に推薦された理由が良くわかりました。話は戻りますが大学は京都ですか。

(徐) いえ、東京女子医科大学です。当時は専門課程しかなかったので、教養課程は他の大学で学び、再度試験を受けて入らなければなりません。今と違って面倒ですよ。

卒業後産婦人科の医局に入局した時も無休で働きましたよ。そのきつい経験が開業してから役に立ちました。産婦人科に夜も休日もありませんからね。

(長谷川) 医師会の会長を交代されて少しは時間が出ましたか。

(徐) 現在は県医師会の医師会保の副議長をさせていただいています。(長谷川) では相変わらずお忙しい

毎日ですね。なにか健康の秘訣はあるのでしょうか。

(徐) 特にありませんが、くよくよしないことかしら。それとお酒を楽しく飲むこと。私は男性に負けないうくらい飲みますよ。

(長谷川) では最後に若い後輩たちになにか一言頂けないでしょうか。

(徐) 私なんて何も言うことはありませんが、医師会に入ってくる若い人たちをみているのは良いけれども、自分の主張ばかりで「いかがですか?」の一言がありません。相手の意見も聴く耳を持つことは重要かな。私は常に「至誠」の気持ちで生きて行きたいと思っています。誠実に、献身的に、現代風に言えば3Sかな。

(長谷川) なんですとか3Sとは。

(徐) スピード、スマイル、サービス。(長谷川) なるほど、良くわかりました。高校時代からお変わりなくハイタリテイあふれる徐さんとお話できて、私も力が湧いてきました。今日は貴重な時間を取って頂きありがとうございます。

お二人の対談を傍らで聞いていて、私たちの時代にはないパワーを感じた。偏差値で学校を選ぶのではなく、女子最高学府としての東高の輝きを感じるのだ。また、お二人の時折見せる女学生のような会話を楽しいひと時でした。

(小林哲也・高31)

母校、百年の登音(前編)

本山高平

1 はじめに

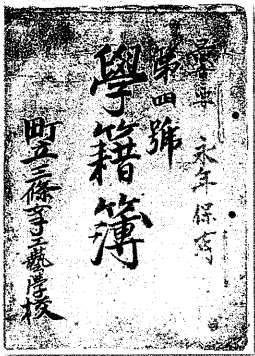
3年がかりで創立以来に係わる旧職員の「名簿」が、整理されつつあります。今から遡ること98年前、明治43年からです。

諸々の資料収集には、膨大な(大袈裟かな?)時間と経費がかかります。別な表現を借りますと、体力勝負でもあります。それは扱置き、掻い摘んで「校史」を纏ぐことにします。

2 本校の草創期

明治43年4月23日付、国の「官報」に次のように記載されています。原文にて片仮名併記します。

「新潟縣南蒲原郡三條町二徒弟學校規程ニ依リ町立三條女子工藝學校ヲ設置シ明治四十三年四月ヨリ開校ノ件認可セリ 文部大臣」
女子工藝学校の母胎は、明治35年組合立三條尋常高等小学校女児補習科です。8年後に改組したことになります。本科3年、専科2年の5年制で、年齢では12〜17歳となります。明治40年に小学校の義務教育が4年制から6年制になって、12歳入学になるからです。



授業内容は主として裁縫中心でした。学籍簿【筆者が三条小に依頼して寄贈して頂いた。本校にとって第1級の資料】を載せれば一目瞭然ですが、紙数の制限で割愛します。

三條町は南蒲原郡(平成大合併前でいいますと、田上加茂・下田・米・中之島・見附)に入っていました。明治12年のことです。

後述で出てきます学校長清水家助(大正10年〜13年度勤務)は、「町立故、広く他町村からの応募者に限られ、上級学校への進学は土地の状況から鑑みて、約10年位遅れ、施設充実、とりわけ教授内容をより一層高めていく必要」と、当時の新聞や手記に記しています。

左記資料は、明治44年のもので、13人の操行、学習成績が分かります。

3 実科高女——明治45年

高等女学校令改正に基づく学校設立です。この年、県立校は新潟をばじめとして高田、長岡、柏崎、新発田の5ヶ校がありました。

郡町立の実科高女は、本校を含めて6ヶ校。明治45年7月30日に明治天皇が崩御されて、「大正」と改元されますが、大正15年末には本校も県立移管となつていきますので、県立高女11ヶ校となり、郡内では1校のみです。

本論に入ります。どこの学校に併設されたか。今の三条小、三條尋常高等小学校です。間借り生活が7年続き、当初は1年と4年が同じ教室。女子工芸と同じく3学級編制でした。男子を集めての小学校に開校したことになりました。

勿論、校長も違いました。官立の新潟師範(全国4校設置)出の中澤中でした。改良服といって、女学生生の憧れ「葡萄酒の袴」とは程遠い地味なものでした。

「学則」が唯一残されていますので、教授内容、週当りの授業時間等が分かります。

永年保存の『学校沿革史』も残されています。学校設立二關スル事項に概略次のように述記されています。
「郡ノ中央ニ位シ、各官衙ノ所在地トシテ從來ヨリ高等女學校ノ設立ヲ希望シ會テハ郡教育會ニ於テ郡立ノ建議ヲナシ又郡會ニ於テハ縣立ノ建議ヲナシタルコトアリシモ(中略)只管高等女學校ヲ渴望セリ」

(1) 高女との違いは?

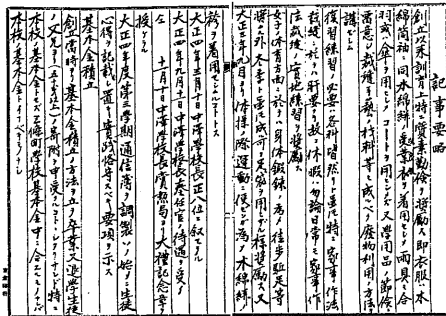
共に修業年限は4ヶ年ですが、決定的とは言い難いのですが、英語がなく、家事・裁縫の時間数が左記のように50時間余も違うことだといえます。

高女	実科	区分	学科目
8	6	修	身
22	24	国	語
12	0	外	国
歴史・地理	4	社	会
11	8	数	学
8	4	理	科
7	4	(1)家	事
(2)16	(1)76	(2)裁	縫
(3)12	(2)18	(1)図	画
	(1)8	(2)音	楽
	(1)4	(3)体	操
112	140	計	

(2) 本校の学科課程比較表

学年 科目	1		2		3		4		摘要
	明45	大4	明45	大4	明45	大4	明45	大4	
修身	2	2	2	2	1	2	1	2	数字は毎週教授時数である。
國語	6	6	6	6	6	5	6	5	
算数	2	3	2	3	2	2	2	2	
歴史	2	2	2	0	0	0	0	0	
地理	0	3	0	3	0	0	0	0	
理科及家事	2	2	2	2	3	3	3	3	
裁縫	15	13	15	13	20	17	20	17	
圖畫	1	1	1	1	0	1	0	1	
唱歌	1	1	1	1	1	1	1	1	
体操	3	3	3	3	3	3	3	3	
合計	34	34	34	34	36	34	36	34	

課程表の改正年月日は考証済です。大正4年度は本校初出です。ところで、学級数は大正7年3月まで4学年で3学級の編制でしたが元的女子尋高小に移り、複式学級が解消されました。



こんな事蹟も分かりました。大正2年12月18日、修業年限を2年に、1学級40人を58人にする改正案を文部大臣へ。翌年の六月に却下されています。県内の様子を調べてみますと、2年前の明治44年に佐渡金沢村立の実科高女が2年制(入学資格は高等科)でしたが4年制に組織変更されていますので、大正2年当時は、県内一ヶ校もなかったこととなります。8年後の大正10年に、中蒲原郡新津町立の実科高女は2年制。翌年、本校より早く県立高女へ昇格します。でも深く係わっていることを私たちに教示しています。

先輩訪問

(第一回)

【一月十四日(日)曜日】午前
十時、私塾記者三人は、本校第
一回卒業生で、現在東新保に住
んでおられる栗山シヨキさん宅
をお訪ねしました。もう五十年
以上昔のこと、記憶もぼん
やりし、一人は心細いからと
栗山さんのお宅には、クラスメ
イトだった内山エンさん(層尾
在任)が応援に来て下さり
ました。

(制服は改良服)

「今日はおいそがしいところ
へんところがありそうごま
ます。さうさくお話を聞か
したうと思ます。まず始め
に在学期間は同年でしたじ
よかか。」

【栗山】ええと、明治四十二年
から大正二年までの四年間です
。その当時の先生方も生徒の
服装は、

【栗山】女の先生は羽織、ハカ
マ姿で、生徒は紺ガサリの改良
服でした。(どうぞ写真をごら
み下さい)(この改良服の柄の大

きさは、その人の年令や好みに
よってちがいました。色は白
と紺がまわってました。今の
制服は季節によって変えている
よつてですが、改良服は一年中着
ていましたので、夏・冬の気温
の調節は下着でした。下は
ハカマではなく、少しシャッ
の入ったスカートで、その当時
ではハイカラだったんですよ。
【内山】そうですね、どこの学
校でも着ていましてしたね。
。生徒数はどのくらいでした
か。

【栗山】第一回は十二人、第二
回は十八人、第三回は十八人
第一回のうちでいま三条にらる
のは私塾(柄沢シマさん)二
町在住、たけで、七くなられた
方は何人くらいでしょうか。
【内山】そうですね、四人くら
いじゃありませんか。
【栗山】あの方の消息はわか
りませんか。

(男女交際は厳禁)

「その頃、男女交際はどうで
したか。」

【栗山】男性との交際は絶対に
出来なかつたし、またそれに關
する書籍も禁止されてました
(内山さん同感)

「戦争の時の思い出は？」
【栗山】第二次大戦ですわね、そ
うですね。私は女学校を卒業す
るとすぐ東京の学校に入り、ず
っと東京に住んでいましたから
戦争には東京で会いました。も
う逃げることも精一杯でした。



【栗山】東京でもすごでした。
(ぞうさん)学校
【栗山】ついでには、

理科は実用的なものを教えられ
裁縫は手芸や、男ハカマの縫ひ
万等、専門的なものをやまし
た。課目も裁縫でコマカされて
いました。
【内山】そうですね、他校の生
徒には、「ぞうさん学校」とい
われた。年中縫ひものはか
りだからね。
【栗山】音楽は小学校からオル
ガンを備へて、一年生と二年生
がひと組になって授業を受けま
した。体育と作法はありませ
んでした。

【内山】図画は手本があり、そ
れをそっくり写した人が上手な
んですよ。
。次に校則についてお願ひし
ます。
【栗山】あまりありませんでした
【内山】だから今より自由でし
たね。

「日曜日など休みのときは何
をして過ごされましたか。」
【栗山】手芸や裁縫が多かつた
ので、あまり遊ぶヒマはあり
ませんでした。でも時々先生の
ところへ遊びに行き、グリンビ
ースの御飯をたいたりしました
【内山】私は手芸が好きだった
ので、ほとんど外へは出ませ
んでした。
【栗山】お正月になると学校へ

出かけて行って、先生方と一緒
にカルタ会をやりました。あな
た方もやりますか？
【記者】はいえ、百人一首の読
みかたができませんし、した
いと思ひます。

(障子の教室)

「最後に在校生に一言」
【栗山・内山】私達の時は三条
町立女子芸学校と呼ばれてお
り、今の三条小学校を間借りし
ていました。その頃は障子戸で
清掃の時はハタキでバタバタや
つていたのが、だんぐと格が
あがつて来て、今では東立に
なつて、見がえるほど立派
な学校になりました。自分が卒
業した学校が立派になることほ
うれいことですので、これか
らもう立派な学校にして下さい
お願ひしますよ。
【内山】はい、今日は大変あり
がとうございました。
【栗山・内山】あまりよいお答
えもできませんでしたが、
以上で質問を終え、あとは栗
山さんのお家の方も交々も雑談
に切り、楽しい時間を過ごし、
予定の時間を超過して午後四時
頃お別れしました。
(写真は後列向かって右から三
番目栗山さん、五番目内山さん

4 大正末以降の部活動

県立図書館へ幾度となく足を運
び大発見。当時の新聞検索をはじ
め、資料調査係のサポートもあり、
県内初出の記録一覽を作りました。

以下、簡潔に記していきます。
大正13年(一九二四年)、第2
回県主催による県下女子中等学
校に初参加し、走高跳に近藤ツ
ネが三等、翌年は堂々の一等で、
記録は1米22cm。

籠球部の大活躍はスゴイ
初参加で三等(新聞では四等
になっていたが誤記)で、以下、
県立高女になった大正14年以降
は、大14年3位・昭5年3位・
昭6年1位・昭7年1位。この

年全国日本女子総合籠球大会に出
場し、全国3位となる。本校に
とつて初めての県外出場で、大
正10年、13年度校長であった清
水家助の娘淑子もフオワードで
出場し、県教委体育史に記載有。

弓術(道)は国の奨励

第15回女(町立高女最後の卒
業生)の6人が凛々しい鉢巻き
袴姿の写真が残っています。恐
らく、大正10年頃にはあったの
ではないかと考えられます。
弓道場はなく、源川弓道場で
練習していました。

昭和13年、14年に輝きを増して
団体、個人とも1位となり(13
年度)、終戦前の17年度に木戸テ
イの名前が出てきます。

5 実科高女から高女へ(大正10年)

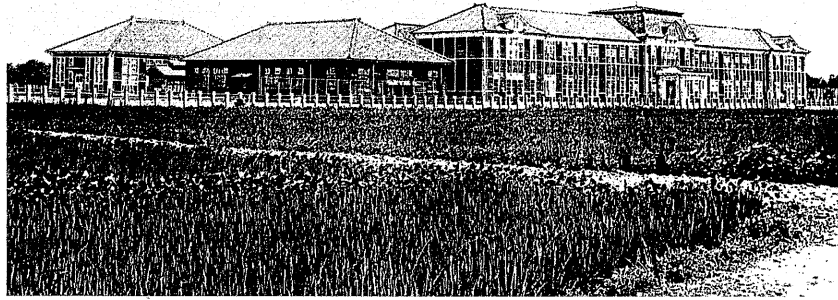
専任教長として、前柏崎中学の
首席教諭(教頭)であった清水家
助が着任し、英語と音楽に殊の外
力を注ぎ、中興の祖といえます。
学科課程(教育課程)は残され
ていませんが、概ね県下高女の時
間配当例は示され、土地の情況に
よる、二、三時間の増減があつて
もほぼ全県的に同一の教育水準が
保たれてきた経過があります。

戦前戦後の教員の宿直制度の要
因にもなつたといわれる「教育勅
語」の騰本拝戴も、大正12年10月
25日と『沿革史』に記録されてい
ます。戦前の教育を受けた人は、
一言一句暗誦して、勅語奉答歌も
式典では歌いました。

学級募集については長い間(90
周年記念誌も同じ)事蹟が誤まっ
たまま一人歩きをしていました。
『新潟縣統計書(教育之部)』、『三
條町事務報告書』を検証しました。
大正11年度から2学級編制になり、

質・量ともに充実して進学先に東京女子高等師範(現お茶の水女子大)、津田英学塾、日本女子大 schools へと進みました。

6 県立高女へ昇格(大正14年)



昭和2年8月 竣工 校舎全景

待ち望んでいた「県立高女」昇格は、事はスムーズに運ばず、相当の難産でした。『縣議會史』に詳細に出ていることを見つければ、校長の回顧小文の中にサラリと意味

深に述べられ、考証しました。隣町の加茂でも県立高女誘致の動きもあり、「郡制廃止」に関連する昇格を逃した本校・小千谷・村松の3校は、3年後、大きな政争の嵐の中に否応なく巻き込まれていき、本校の昇格を原議承認する時、議長、副議長とも雲隠れ。今では考えられない状況でした。条件が付きましました。町は向こう3年間、経常費を負担すること、校舎及び敷地を無償にて県へ寄附する等でした。校舎は、9万4千

6-1 障圍の桜
こんな立派な校舎が建つたのに、当時の新聞(4紙)には写真が載らず、ましてや校舎図面もナシ。県立文書館にて昭和9年のものを見つけ、90年誌に載せましたが、北入蔵への引越しの際、焼却されたと思います。
職員生徒一同の写真(新築時の)が残され、晴れがましいこと！最高でした。保内まで行つて植樹用の選定、購買部も大活躍して、環境整備に力を尽くしました。

のですね。少し陸上競技の記録を追うことにします。(本校初出)
・四百継走 — 昭3年④位、昭4④、昭5④、昭6④、昭7⑤、昭8⑤、昭9⑤、昭10⑤、昭11⑤、昭12⑤、昭13⑤、昭14⑤、昭15⑤
・走高跳 — 昭3年④位、昭4④、昭5④、昭6④、昭7⑤、昭8⑤、昭9⑤、昭10⑤、昭11⑤、昭12⑤、昭13⑤、昭14⑤、昭15⑤
・三段跳 — 昭5②、昭6④、昭14④

沿革略史

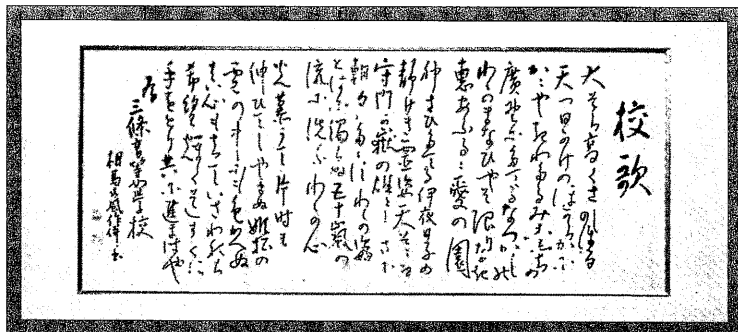
Table with 2 columns: Date and Event. It lists the school's history from its founding in 1910 to 1944, including organizational changes, sports achievements, and building completion.

円弱、敷地買取整地併せて3万1千円。合計12万5千円。町にとっても相当な出費だったと思います。また、3か年の負担金額も考証しました(約3か月程の調査)。当時、ウシ口校舎といわれた一棟は、旧実科高女時代の建物を移築しましたので、古かつたはずで、写真で見ると、田んぼのどまん中に建ち、西北地に、町の火葬場(現在のVIP辺り)がありましたので、「あんな所へ娘を行かせられぬ」と、町中のウワサが立ちました。

桜は今、まつ盛り。そうなんです、旧跡地北側に15本残っているんですよ。旧高女の方々、ウーン持っていていつて見せたい……と。
それはそれは美しい桜でした。きつと皆さんの胸に刻まれていることであらう。

6-2 環境良し、いざ文武
既述しましたが、部活動も俄然強くなり出します。東京高師体育出身の教諭加茂正男(静岡県の出身)は三段跳びで全日本級の選手だった由で、強くなる理由はある

最後にありますが、戦前(つまり高女時代)の校訓は、教育勅語の聖旨を踏まえ(全国皆さうです)次のようなものでした。
貞淑・報恩・明朗
誠実・勤勉
(次号へ続く)



昭和3(1928)年3月24日 制定

学校概況報告

I 進路状況(過去5年間)

1 卒業生の進路内訳【進路指導部資料より】

卒業年度	国公立大学	私立大学	国公立短大	私立短大	専門学校	就職・公務員	その他	在籍
15年度	13	107	20	40	99	13	66	358
16年度	10	127	15	32	118	14	41	357
17年度	12	140	17	35	115	12	21	352
18年度	16	142	13	29	132	11	11	354
19年度	23	157	12	27	95	12	19	345

2 主な進学先(過去5年間)

〈国公立大学〉

新潟(人文・法・経済・教育人間科・理・工)
 長岡技術大学 上越教育 新潟県立看護 北海道教育
 北見工業大 室蘭工業 秋田 山形 筑波 埼玉
 一橋 東京学芸 富山 金沢 鹿児島 会津 高崎経済
 埼玉県立 福井県立 宮崎公立

〈私立大学〉

酪農学園 東北学園 東北福祉 足利工業 白鳳
 東京国際 城西 獨協 文教 淑徳 埼玉工業 駿河台
 千葉工業 青山学院 亜細亜 桜美林 北里 大妻女子
 工学院 國學院 国士館 駒沢 実践女子 成蹊
 昭和女子 専修 大正 大東文化 拓殖 玉川 中央
 帝京 東海 東京音楽 東京経済 東京家政 東京農業

東洋 日本 日本体育 法政 武蔵 武蔵工業 明治
 明治学院 明星 立正 神奈川 関東学院 金沢工業
 長野 山梨学院 近畿 関西学院 敬和学園 新潟産業
 新潟薬科 国際情報 新潟経営 長岡造形 新潟工科
 新潟青陵 新潟医療福祉 長岡

〈国公立短期大学〉

県立新潟女子 山形県米沢女子 長野県立
 会津大短大部 長岡工業高専

〈私立短期大学〉

新潟工業 新潟青陵大短大部 新潟中央 日本歯科大新潟
 明倫 國學院大栃木短 亜細亜大学短大部 鎌倉女子
 昭和女子 昭和音大短大部 実践女子 女子栄養大短大部
 東京福祉大短大 東横学園女子 武蔵丘 山脇学園短
 金沢学院短

II 部活動・同好会の紹介

1 編成

〈運動部〉

バスケットボール ソフトテニス テニス バドミントン
 野球 バレーボール 卓球 ソフトボール 少林寺拳法
 ダンス 陸上競技 山岳 剣道 サッカー 水泳

〈文化部〉

美術 書道 吹奏楽 コーラス 写真 文芸 英語
 演劇 生物園芸 放送 華道 茶道 琴 生活文化

〈同好会〉

柔道 軽音楽 新聞 パソコン

慕光会役員会活動

昭和五十八年卒 加藤 一芳

役員メンバーは会長一名、副会長が若干名に書記、会計、会計監事、顧問など約三十名で構成されております。その中には学校長が名誉会長に、教頭先生も副会長に含まれるといったように慕光会と学校の連携が重要なことは言うまでもありません。役員の皆様は職業は歯科医師、寝具販売店、建築家、教師、団体職員など様々ですが、なんとと言っても多くは一家の主婦であるお姉さま方！のパワーはすばらしいものがあります。旧女子高であったため男性役員がまだ少ない頃から学年を越えた縦のつながり、クラスメートの横のつながりとも強固なものであり、慕光会総会などのイベントの際はその絆と行動力は目を見張るものです。三条東高を心から愛し、もともと盛り上げていこうという気構えは本当に頭が下がります。

役員会の主な活動のひとつに例年五月に行われる各クラスの代表者で開催される常任幹事会、卒業生なら誰でも参加できる七月の慕光会総会ならびに懇親会の開催です。また、入学式や卒業式、体育祭や文化祭などの各種学校行事に参加することも重要な活動です。特に昨今、女子駅伝の全国大会出場や演劇部関東大会出場など生徒たちの目覚ましい活躍に対し応援することができ大変喜ばしいことと思っております。活動には他にも今ご覧になっている慕光会会報の発行も毎年本当は裏方では

※役員名簿(平成二十年度)

名誉会長	森 久(校長)
会長	住谷 豊
副会長	下村 宏子・小幡 初春 佐藤 隆志・小林 哲也
書記	山口 淳弘・加藤 一芳 片岡 克教・中川佳代子(教頭)
書記	青田ミヨシ・傳 優子 池田カズイ・水野 彰
会計	田辺 信一 山村 英子・鳥部 隆行
会計監事	五十嵐八代栄 梅田 信治

ばたばたですが(いつも原稿の締め切りに追われています)何とか今年で三年目となりました。これもひとえに皆様の会報発行に対するご支援の賜物と感謝いたします。

役員というどうせおじさん、おばさんばかり(失礼!)といった感じに思われるかもしれませんが二十代、三十代の若い人も結構おりますし、そもそもあまり歳を感じさせない人が、気が若い人ばかりで、一例を挙げると連絡事項や議事録など情報交換はなんとヤフーのメーリングリストを使っているのです。ちよつと先進的でびっくりでしょう!?

役員会などが終わってからちよつと一杯居酒屋で引っ掛けていくのも楽しい一面です。このような活動ですが皆様の参加を心からお待ちいたします。三条東高を愛し、ちよつと世話好き、お祭り騒ぎ大好き、そんなあなたも充分資格があります。一緒に三条東高を盛り上げて行こうではありませんか!

山荘『ある目の午後』

後輩達が、家族や仲間連れで山荘に集まっているらしい。週末は特に用もないので、合流する事にする。

昨夜からの雨も止み、高速から見える遠くの景色も、とてもクリアできれいだ。

一時間足らずで六日町インターを降り、近くのスーパーで食料を仕入れて、清水部落に向かい再びハンドルを握る。少しずつ高度を上げながら三十分程で山荘に到着した。何が嬉しいって、車を山荘前に横付け出来るのがすごく嬉しい。体力だけは自信があった高校生時代ではあるが、それは遙か昔の話。歩かないですむのは有難い。

先に来ていた後輩の子供達が虫カゴを片手に『おぼちゃーん!』と出迎えてくれた。陽が沈むにはまだ早いが、電気のない山荘は暗くなってからでは遅いので、早めにランタンを灯し始める。寒くはないが何故か薪ストーブに火が入る。そうすると山荘は眠りから覚めたように

活動を開始する。ゆっくりとした時間が流れ出す。日常での一時間二時間はあつという間なのに山荘での時間は違う。

ご存知のように五年前『清水山荘』は東高の管理から離れ、山岳部OB会が維持管理する事になりました。建替えの折には、

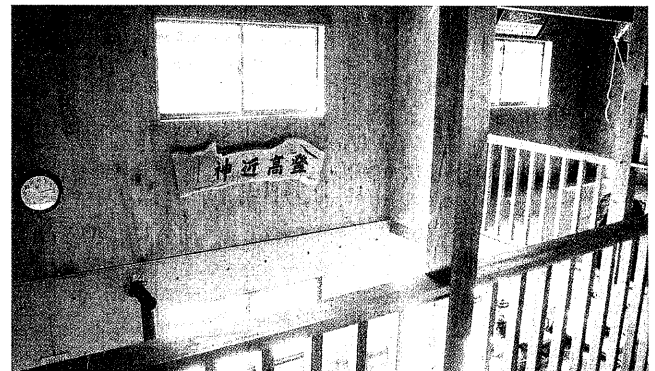
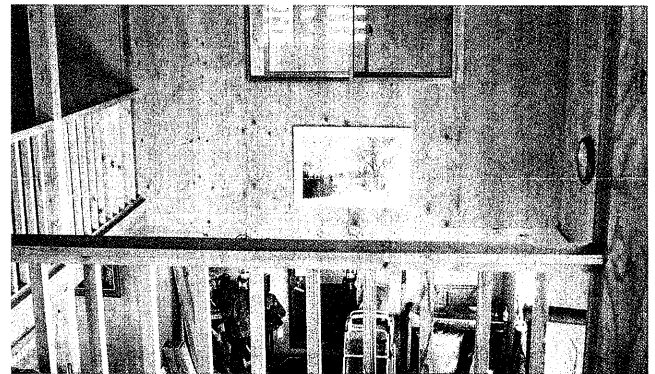
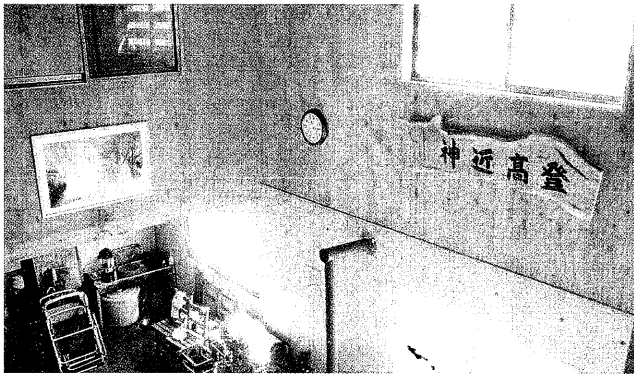
たくさんのご浄財をいただき、竣工式にも同窓会の諸姉諸氏から参加いただき、有難うございました。誌面をお借りして改めて御礼申し上げます。三条東高の百年近い歴史の中で、清水山荘の歴史も四十年以上にもなります。おそらく今年還暦を迎えられる先輩方々から三十代後半くらいの方達は、一度は山荘で宿泊を経験された事があると思います。都会の有名私立学校から自然豊かな地に宿泊施設を持つているところはありますが、県立高校で山荘があるなんて、全国捜しても本当にめずらしいのではないのでしょうか。多感な高校生時代に文化的な物は

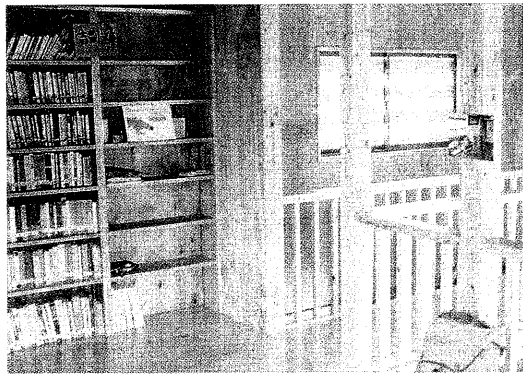
何もない山荘生活を体験出来た事に、三条東高生で良かった、なんて感じるのにはオーバーでしょうか? (入学当時山荘があるなんて知らなかったけど)

山荘ファンは我々山岳部OBばかりではありません。クラス引率で山荘に何度か行かれた先生方達、お声がけすると、山荘に足を運んでくださいます。思い出話に花を咲かせ、さながら『ブチ慕光会』といったところででしょうか。遠くは千葉から

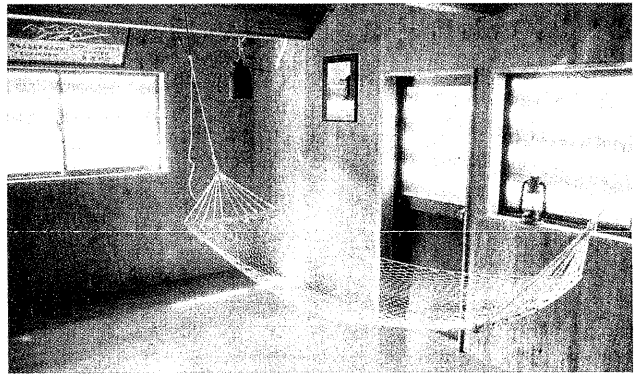
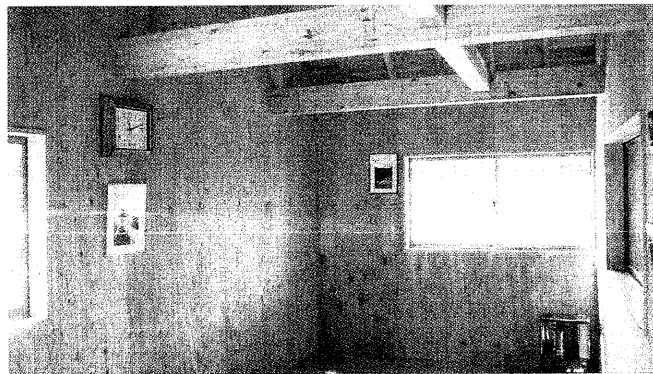
O先生、古希を迎えられても何と若々しい、未だに教わる事も多い。W先生、I先生、H先生、決して面白くないダジャレに無理して笑ってあげるのも当時のまま。三冊目になる山荘ノートは、そんな出合いの場になった楽しい記録や、山岳部の一週間にも及ぶ春山合宿の珍事件:『水に戻したワカメが鍋いっぱいになった』とか『煮込みうどんが焼きうどんになった』とか、読んでいると思わず自分自身もタイムスリップして高校生時代に戻ってしまう。

どれくらい時間が過ぎたるう。





子供達の歓声が聞こえる。後輩のM氏が大きな岩魚を釣ってきた。今夜の宴の主役が決まった。山荘の良いところは時間制限がないところだろう。東高百周年の2次会は泊りがけで山荘もいいかも知れない。思いきりエネルギーを使った自然児達も寝静まり、薪ストーブを囲みながら、「もう少し多くの人達から山荘を利用してもらいたいね」なんてポツリと誰か…。『最近田舎暮らし、流行っているんだって』『ふーん、でもたまに来るからこの良さがあるんじゃない?』なんて取り止めのない話が続く。「ある日の午後」は、いつしか「次の日の午前」へと変わっていた。



清水山荘利用の手引き

利用できる方

山荘の利用資格は以下の三条東高校の関係者に限られています。

- (1) 三条東高校卒業生
- (2) 三条東高校在校生・PTA(学校の指導のもと)
- (3) 三条東高校職員 及び旧職員

(4) 以上の同伴者(1~3の同伴が前提)

利用可能期間

十一月下旬の初雪の頃から四月下旬の雪解けの頃まで、山荘は冬囲いをしてあるため一般の方は五月連休以降が望ましいと思います。

申し込み手順

清水山荘の利用申し込みの方法は次のとおりです。利用の際には必ず下記の手順を厳守してください。

利用の予約を行う

(a) 巻機の役員へ連絡、FAX(ファックス)のみの受付です。

【0256-321-5335】飛田まで代表者の氏名、住所、利用月日、人数、電話番号を明記してください。

*原則として受信のみで返信はしません。但し、利用日が重なり山荘収容定員をオーバーした場合に限り、後者申し込みの方に連絡いたします。

(b) 現地管理人 上田屋旅館に電話してください。【02578-2-3403】お名前と利用する月日を伝え鍵を受け取りに行く時間を約束してください。

以上で申し込み完了です。

山荘使用料

大人(中学生以上) 1泊:¥1,000
小学生1泊:¥500 小学生未満 無料
日帰り 1泊:¥1,000以上のカンパをお願いします。

詳しくは募光会のHPを参照ください。
URL: <http://bokukai.com/>

*上記料金定めました。その他寄付大歓迎いたします。

◆◆関東支部だより◆◆

募光会関東支部

二十九回生(昭和五十二年卒)

佐藤 隆志

共学になって三十二年、男子一期生も今年で五十歳。なんとなく折り返し点、人生の「お返し時期」にはいったような気がします。

今までお世話になった社会・学校・家族・友人等の他に自然等の目に見えないものの多くに、例えば五十年後の人達がこの時代を評価する時に恥ずかしくないように生きたいなあと思います。

経済や福祉・医療問題、環境問題、おかしな事件も多く社会が動いています。そのような時代でも流言や流行に惑わされずに、我々はゆるぎなき道徳心、正義、やさしさ、信頼、聡明、判断力等々、人間的なというか日本人のよさを大事にこれからの時代に取り組んでいきたいと思っています。

昨年(二〇〇七年)の募光会総会の際に前本校教諭であられました本山高平先生からお預かりしました「校史シリーズ」をホームページでご覧いただけるように原稿そのままをPDFデータにしました。

内容は、「PTAの歩み」「本校の運動部活躍の足跡を辿る」「本校、県立移管に関しての初出資料」となっており新潟新聞及び北越新聞からの抜粋をもとに本山先生の考察を加えた本校の歴史の一部をたどる大変貴重な資料です。ぜひご覧下さい。

◆◆編集部からお願い◆◆

クラス幹事の皆様は同級会等を開催する場合の連絡の場としても、この会報をご活用ください。三月下旬までに原稿を頂ければ幸いです。

また、皆様からのお便り、紙面に関するご意見、ご希望等ございましたらご連絡頂ければ幸いです。

あわせて、百周年に向けて資料を集めています。生徒会新聞「ひめまつ」をお持ちの方はご協力をお願いいたします。

◆◆◆編集後記◆◆◆

第3号は「母校百年の聲音(前編)」を集めました。

東高一〇〇周年もいよいよ二年後に迫り、実行委員会の活動も本格始動しています。

会報でもそれらの活動など母校を離れ活躍している同窓生諸氏にご報告していきたいと思えます。

さて、今回はいよいよ「母校百年の聲音(後編)」をお届けいたします。

私たちの知らなかった東高の歴史がいよいよ完結です。

執筆いただいたのは「本山元校長先生」。退職後もライフワークで東高に関する資料を集め、自費出版するほどの東高通です。

どうぞご期待ください。

(小林)